

40103航空業における死傷災害100事例まで（2019年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2019	1	22～23	旅客機客室後方左側の乗務員座席で、着地に備え着陸姿勢をとったところ、接地の際に強い衝撃を感じた。翌日、腰に違和感が生じた。	52	19	239	1000～9999
2	2019	1	18～19	2便目の降機中、旅客のスーツケース（縦50cm、横35cm、高さ30cm、重さ10kg程度）を席上の収納棚から両手で取り下ろし通路に置いたときに腰に痛みを感じた。そのまま次便に乗務し、大きな揺れがあった際に腰の痛みが悪化した。	21	19	611	500～999
3	2019	2	15～16	ダンプトラック荷台から燃え殻を降ろす際、振動により頸椎を捻挫した。	34	2	719	500～999
4	2019	2	8～9	旅客機の座席上部にある手荷物収納棚の扉を閉めようと、座席の下にある足掛けに右足を掛けたところ、足掛けから右足がずり落ち、バランスを崩しながら勢いよく床に右足をついてしまい、骨折した。	27	1	419	1000～9999
5	2019	2	8～9	客室最後部の厨房から食事の入っているカートを客室に出そうと、厨房と客室の間にある境目の小さな段差に注意しながら後向きに引いたところ、腰部に痛みが生じた。	56	19	419	1000～9999
6	2019	2	19～20	旅客機着陸の際、「ドンッ」という大きな音とともに強めの着陸となった。その際、体が下に叩きつけられたように感じ、首、後頭部に痛みと違和感があった。その後、めまいと頭痛が生じた。	32	19	239	10000～
			14	機内化粧室の掃除と備品補充のために中に入った際、自ら閉まる				50～

7	2019	3	15	～	タイプのドア（折れ戸）に左手小指を挟んで創傷を負った。	26	7	391	99
8	2019	3	12	～	旅客機内で、着陸時、通常よりも強い衝撃があった。その衝撃により、体が前に急に傾いたことで腰に強い負担が掛かり、腰中央	29	19	239	500～ 999
9	2019	3	0	～	旅客機内で、着陸時、通常よりも強い衝撃があった。その衝撃により、体が前に急に傾いたことで腰に強い負担が掛かり、腰中央	29	19	239	500～ 999
10	2019	3	15	～	旅客機客室最後方右側の乗務員座席で着陸姿勢をとっていると	32	19	239	1000 ～ 9999
11	2019	3	15	～	旅客機客室最前方左側の乗務員座席で着陸姿勢をとっていると	43	19	239	1000 ～ 9999
12	2019	3	15	～	旅客機客室最前方右側の乗務員座席で着陸姿勢をとっていると	42	19	239	1000 ～ 9999
13	2019	3	15	～	旅客機客室最後方右側の乗務員座席で着陸姿勢をとっていると	38	19	239	1000 ～ 9999
14	2019	3	15	～	訓練センターで機種資格取得訓練実習中、翼状非常口のハンドル	27	6	419	10000 ～
15	2019	4	20	～	旅客機乗務中、降下開始時より左耳の閉塞感を覚え、その後、難	56	90	239	500～ 999

16	2019	4	13 ～ 14	空港宿泊先ホテルでの起床時に首が回りにくいような違和感があった。保安検査場前のエスカレーターに乗る際、右側にあった重さ5～6kgのキャリーバッグの上部取っ手を両手で持ち、両膝を曲げ、若干前傾姿勢で20cm程持ち上げた。その際、頸部右側に激痛が走り負傷した。	25	19	921	10000 ～
17	2019	4	13 ～ 14	空港内において、機内清掃作業に連絡車にて向かう際、工事中により路面に大きな段差があり、運転者が急ブレーキをかけ、段差通過時の衝撃により腰部を負傷した。	55	3	231	300～ 499
18	2019	5	11 ～ 12	航空機内ギャレーで乱気流により転倒し、機体の急上昇により重力が掛かり、腰と首を捻挫した。	36	6	229	100～ 299
19	2019	5	13 ～ 14	訓練センターにて訓練中スライド実習をしていたときに、勢いが余りマットと床の段差でひねり、右足首を捻挫した。	29	19	416	1000 ～ 9999
20	2019	5	8 ～ 9	空港ステーションコントロールに続く階段を下りようとした際、階段前の仕切り用ポールをずらして通った後、ポールを元の位置に戻した。その後、振り返ると同時に階段上から転倒し、階段の中部あたりまで転げ落ちた。その際、右手から床につき、右手小指に打撲傷を負った。	29	1	413	500～ 999
21	2019	5	2 ～ 3	海外宿泊先のホテル部屋で、ベッドに横臥した状態で、ベッド右側脇のテーブルに手を伸ばしたとき、体勢が不安定になりテーブルの端に顔面右側を強打した。その際、右頬骨あたりに長さ2cm程度、右目尻に1mm程度の裂傷を負い、出血し、右目下が腫れた。	58	3	419	1000 ～ 9999
22	2019	5	12 ～ 13	鼻炎持ちのため乗務前より少し鼻水が出ていた。3便目着陸のため降下を開始した頃、キャビン歩行中に両耳にチクチクと針を刺すような痛みを感じ、同時に両耳が詰まり、航空性中耳炎となった。	21	90	239	500～ 999

23	2019	5	9 ～ 10	旅客機客室最後方の厨房にて、約1200ccのお茶の入ったポットを調理台上で移動させようとした。その際、調理台表面の継ぎ目に引っ掛かり、自分側へ倒れ、お茶がすべてこぼれ、腹部に掛かり、火傷した。	26	11	419	1000 ～ 9999
24	2019	6	16 ～ 17	旅客機化粧室の収納棚から、隙間なく収納されていた吐袋を取り出そうとした。その際、強い力で引っ張ったところ収納扉が勢いよく外れ、鼻根（眉間部分）に当たり、切傷（約1cm）を負い、出血もあった。	33	4	419	10000 ～
25	2019	6	17 ～ 18	勤務終了後、滞在先のスーパーに行き、入店後すぐに少し寒気を感じ、約1～2分後に意識消失し転倒した。その際、頭頂部に外傷を負い、出血もあった。	24	2	921	500～ 999
26	2019	6	22 ～ 23	着陸前に、他機の後流により突発的な揺れが発生し、機体が縦に大きく揺れた。その際に、体が浮き上がり左腰から床面に着地し、そのまま後方のスライドコンテナに左頭部をぶつけ、左手を床面についた。その衝撃により、頸椎、腰椎を捻挫し、左上肢を打撲した。	29	3	239	500～ 999
27	2019	6	8 ～ 9	旅客機搭乗案内中、旅客が手荷物を座席上物入れに収納しようと側にいた被災者である客室乗務員に差し出すように持ち上げた。被災者は補助のつもりで支えようと手を伸ばした直後、旅客が荷物から手を離れたため、両手で挟むような体勢で手荷物を支えた。その際、下側を支えた右腕に負荷が掛かり首筋に違和感を覚えた。その後、右肩関節捻挫、頸椎捻挫と診断された。	25	19	611	10000 ～
28	2019	6	7 ～ 8	航空機離陸直後、所定のシートに座っていたが来ない監視のためにシートベルトをしたまま客室をのぞこうと頭一つ分ほど体を客室側に向けた際、強い揺れがあり臀部を所定のシートに打ち付け要部を捻挫した。	22	19	239	100～ 299
29	2019	7	12 ～	航空機内で乗務員用の食事を準備していたとき、強い揺れが発生したため、安全バーに掴まりしゃがんでいたところ、衝撃を受け	28	6	239	500～

			13	て頸椎を捻挫し、右肩に挫傷を負った。				999
30	2019	7	20 ～ 21	旅客機搭乗中に旅客のピギーバック（10kg弱）を座席上へ入れようとした。その際、バックを体の正面に持ち、屈んで持ち上げたときに、腰に痛みを感じ負傷した。	23	19	611	10000 ～
31	2019	7	20 ～ 21	旅客機乗務中、空港へ向けて降下している際、急激な圧力の変化により中耳炎となった。	28	90	239	500～ 999
32	2019	8	15 ～ 16	空港内の手荷物荷捌き場で、旅客の手荷物をコンテナに組み付ける際、荷物を持ち上げたときに腰椎を捻挫し、椎間板ヘルニアを発症した。	71	19	611	300～ 499
33	2019	8	20 ～ 21	機内ギャレーで着陸前の安全業務中、機体が急に大きく揺れたため、テーブルに右腕と左足を強打して負傷した。	29	3	239	50～ 99
34	2019	8	15 ～ 16	乗務のため、旅客機客室通路にて手荷物（ピギーバック）を移動中、他の乗務員が席上の収納棚から取り出した手荷物を落下させた。その際、被災者の背中に当たり、背中から腰にかけて痛み、尻部に違和感が生じた。	28	4	419	1000 ～ 9999
35	2019	8	9 ～ 10	手荷物横持ち業務中、内際カウンターの後ろに通りがかったとき、スケールから後ろに移動された手荷物（キャリーケース）が左足の上に乗るようになるようにぶつかり、左足を負傷し、左足小指を骨折した。	41	7	362	500～ 999
36	2019	9	14 ～ 15	航空機にパッセンジャーステップを装着する際、誤ってステップの車輪が右足に乗り負傷した。	24	6	379	1000 ～ 9999
37	2019	9	12 ～	着陸時、シートベルトを着用し着陸の衝撃に備えた姿勢をとってCAシートに着席していたが、車輪が強く叩きつけられるような着陸であった。翌朝、尾?骨を中心に痛みがあり、左側腰部から背	30	19	239	500～ 999

			13	中下部にかけて強い張りが生じた。				
38	2019	9	16 ~ 17	手荷物仕分け場にて、ベルトコンベアを外側部分から路側通路に着地した際、別のスタッフにぶつかりそうになり、避けようとし、バランスを崩し、転倒し、右足首をひねり負傷した。	26	2	224	1000 ~ 9999
39	2019	10	13 ~ 14	航空機に荷物を積み込んでいたとき、腰を負傷した。	38	19	921	1000 ~ 9999
40	2019	10	23 ~ 24	空港内バゲージルームで、清掃員が看板を立てずに床に液体洗剤を撒いて清掃していたため、気付かずに歩いて滑り右足首を捻挫した。	41	2	417	500~ 999
41	2019	10	21 ~ 22	旅客機内で後方化粧室前に立っているとき、突然大きく縦に揺れ、バランスを崩して前方に倒れ込むような姿勢で膝を床についた。その衝撃で、もともと痛めていた腰にも衝撃が加わり痛みを感じた。その後、自席に戻り着席しようとした瞬間、再び大きく揺れ、再度腰に衝撃が加わり、外傷性椎間板ヘルニアとなった。	21	19	239	300~ 499
42	2019	11	13 ~ 14	航空機の運航業務を継続中に、右難聴を発症した。	45	12	714	100~ 299
43	2019	11	7 ~ 8	航空機内で客の荷物を抱えた際、重量があったため腰を負傷した。	28	19	611	500~ 999
44	2019	11	8 ~ 9	3日前の夜から少し風邪気味であったが、前日のフライト中は1度も耳が詰まることなく、体調は回復傾向であった。前日の夜にはほぼ鼻水も出ておらず、当日乗務を開始した。降下を開始してから10~15分後に耳が詰まる感覚があり、着陸後も状態は変わらず耳抜きをすればするほど痛みが走り、航空性中耳炎となった。	26	90	239	500~ 999
			5					

45	2019	12	6	航空機内ギャレーで物品の片付け中、乱気流で機体が揺れたため転倒し、左腕と左肘をぶつけて負傷した。	25	6	239	500～ 999
46	2019	12	18 19	飛行機に乗務した際、空港に向けて降下中に大きな揺れに遭遇し、乗務員用シートに着席しシートベルトを着用していたが、上半身が揺さぶられる形となり、腰に痛みを覚え急性腰痛症を負った。	27	19	239	500～ 999
47	2019	12	13 14	旅客機後方ギャレー内にて、しゃがんでカート扉を開けての作業中、旅客が後方を通るため立ち上がる際、旅客の体が左脇腹から背中下部に接触した。その弾みで、中腰の状態ですら右斜め前方に倒れ、ギャレーのハンドルに右額こめかみを強打し、頭部を負傷した。	33	6	921	10000 ～
48	2019	12	22 23	旅客機、2便着陸時、前方向きに客室乗務員用席に着席していたところ、ズドンと機体が真下に重力が掛かると同時に強めに着陸をし、着地後すぐ左右に揺さぶられる揺れを感じた。当日は症状はなかったが、翌日、首と腰に痛みを感じた。	28	19	239	10000 ～
49	2019	12	16 17	1便目の降下中、左耳が詰まり耳抜きができなかった。その後、2便目の降下中、両耳が詰まり激しい痛みを伴った。	23	12	239	500～ 999
50	2019	12	10 11	空港貨物上屋内にて、到着便の貨物仕分け作業中、カーゴトラックの荷台の上で10kg程度の貨物を持ち上げた際、貨物重心が中心より左にあり、バランスを崩し、左足が滑り膝が内側に入る体勢となり、左膝を負傷した。	53	19	921	1000 ～ 9999
51	2019	12	19 20	空港構内にて、旅客機のラバトリー作業中、ラバトリー車後部のはしごを使用し、タンク上部へ上る際、足元が滑り、転倒しそうになり、後方姿勢のまま飛び降り、右足踵を負傷した。	62	3	221	10～ 29

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例まで（2019年）](#)に戻る。